

2日目

1) 講義 「地域母子保健計画推進へのデータベースの活用」(9:40~10:00(20))

はじめに: 健やか親子 21 の取り組みをきっかけに保健情報の活用方法を学んでいけたらというように考えていただければと思う。

研究班の目的の説明: 情報集積・評価・活用を一元化したシステムの構築、システムを利用した継続的な地域マーケティングリサーチ、実際の事業展開、及びヘルスケアシステム手法のプロトタイプを提示することを目的としている。具体的な成果として、健やか親子 21 の公式ホームページを構築し、この 12 月で 10 万件のアクセスを達成している。順調にアクセス数が伸びている。特に力を入れているのが 2 つのデータベースである。

母子保健・医療情報データベースの紹介: 特にアクセス数が多いコンテンツ。前年度に構築したものである。近年 10 年分の母子に関する調査・研究について文献の情報をまとめている。検索例の提示。ここでは一般の検索エンジンと違って、情報の質が評価できるような情報が掲載されている。Web 上に情報がある場合はリンクしている。

取り組みのデータベースの紹介: 地域の取り組み情報をまとめたもの。これは、健やか親子 21 として取り組みを考える時に、特に情報がない。しかし全国の市町村では同じような課題を抱えているところがたくさんある。情報を得たい時に全国でどのような取り組みをしているのか、ということを検索したり、詳細な計画を見たりすることができる。ただ、現在検索ができるデータベースについては、2001 年度に実施した調査から機械的に入れこんだものであり、中身のないものが多い。情報が乏しいという理由から、まだ十分に活用していただけていない。

取り組みの目標の紹介: 健やか親子 21 のベースラインに関するエクセルの図表がダウンロードして利用してもらうことが可能になっている。

まとめ: 全体的には順調に利用者が増えているが、データベースに関してより充実させていくことがこれからの課題になっている。情報の共有ということを考える時に、情報を利用するために情報を提供することが必要であり、提供によりデータベースが充実し、充実したデータベースを自分達も有効に利用できるというシステムを認識していただきたい。

データベースの活用に関して、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の 3 点が大きな課題であると思われた。今回はそこから始めていこうという主旨の研修会である。

2) ワークショップ 「健やか親子 21 ホームページとデータベースの活用」(9:30~15:55)

○ はじめに (25分)

- ・ インターネット経験の有無の確認 (大半が有り)
- ・ 概要の説明 (山縣)

- ・ 各自のパソコンのスイッチを入れる
- ・ エクスプローラを開く
- ・ お気に入りに追加の説明（次回から URL を書かないでも良いことの説明）

○ HP 各コンテンツを把握してみる（10分）

- ・ いろいろなコンテンツを開いてみる
- ・ 例として、報告書厚生労働省のサイトへのリンクの紹介と戻り方2種類の説明（会場：ホームページが消えてしまった人 一部）
- ・ さらにホームページ内を活用してみる
- ・ 検索エンジンを使用したアクセス方法の紹介（yahoo からの検索方法）
- ・ 会場：作業（純粋な作業時間 各講師が説明）
- ・ データベース2種を主に活用していた
- ・ PDF ファイルを開いてフリーズした場合が多くみられた

○ 取り組みのDBを活用してみる（75分）

- ・ 会場：説明画面と自分の画面が違う人がおり、待つ時間が必要
- ・ 新規登録と追加登録の場合の手順の違いの説明
- ・ 新規入力の場合の説明
- ・ 追加入力の場合のパスワード入力の説明
- ・ 会場：大文字でパスワードを打ち込むことができない人がいる
- ・ SHIFT キー&CAPSLOCK キーの切り替えの説明
- ・ 新規入力の場合、区分の入力の説明（追加入力の場合は、個別に説明）
- ・ 団体名の入力の説明
- ・ センターの場合、○○課まで入れた方がいい
- ・ 必須入力項目の説明 郵便番号、住所等入力する
- ・ 会場：オートコンプリートが出て来る→いいえ→消える
- ・ Tab キーの説明 順番に進むことを説明
- ・ ①今日入力したものは出ないこと、②わからない項目は入れなくても良いこと、③ただし必須項目には何かをいれないと進まないことを説明
- ・ 調査日は西暦がベター。スラッシュで区切りながら入力
- ・ エラー画面の説明。必須項目に漏れがあると先に進まないこと、適当な文字を入れて先に進むことを説明。
- ・ オートコンプリートの説明。いいえと押すと消えてしまうので、はい、と押す。オートコンプリートとはコンピュータが先読みすることと説明。

- ・ 次画面の説明。事業名等の入力。
- ・ 持参したファイルを使用して、入力する方法の説明。
- ・ 会場：ファイルの設定、コピーペースト作業。
- ・ テキスト以外で持ってきている人の確認→受付時にテキスト化済み。
- ・ 検索をした人が事業内容をわかるように、という視点が大事であることを説明。
- ・ 個別説明：いくらでも修正が可能であることの説明。(データベース入力・公開・修正等、全体の行程がわかっていないと理解は難しい)。
- ・ 会場：ファイルの設定、コピーペースト作業 (テキスト以外で持ってきている人の確認→受付時にテキスト化済み)。
- ・ 検索をした人が事業内容をわかるように、という視点が大事であることを説明。
- ・ 個別説明：いくらでも修正が可能であることの説明。(データベース入力・公開・修正等、全体の行程がわかっていないと理解は難しい)。
- ・ 課題、目的、背景、予算、予算源等の入力の説明。(未公開項目の選択方法の説明)
- ・ 書き間違えた場合、コピーペーストで別の欄に移動できることの説明。
- ・ 利用料の入力の説明。
- ・ 対象の入力の説明。
- ・ 予算源等、複数ある場合はカンマで切って入力することを説明。
- ・ 会場：プリンターの使用時に紙がない、接続ミス等のエラーがあり、印刷できない。
- ・ 慌ててリターンキーを2回続けて押すと前のページに戻ってしまうので、ゆっくりやってほしい。
- ・ 会場の声：今日、夕方帰ってやってみようと思ってもできないのか？(公開・修正行程が見えていないことによる)。
- ・ 公開・非公開の入力の説明。
- ・ 入力項目の確認画面。
- ・ キーワード入力の説明。
- ・ web への掲載欄の説明 これがないと検索しても引っかかってこない。今のところ、上の許可が得られていないという場合は不許可にしておくが、将来的に掲載可にして欲しい。
- ・ 登録ボタンの説明。
- ・ 修正はいくらでもできることを説明。
- ・ 登録しました、という画面でとめる。大事な画面で事業名とパスワードが出るので、印刷するか、正確に書きとめておいて欲しい。この際大文字であることに注意する。
- ・ 会場：印刷エラーあり。

- ・ この後続けて登録したい場合と、終わる場合を選択することを説明する。
- ・ パスワードを控え忘れた場合には問い合わせてもらえば、対処が可能であることを説明
- ・ 今後の行程として2種類がある。①修正したい場合は、公開の手続きをこちらですれば、修正が可能になる。②もう一つは公開が自分だけでは判断できないという場合は、web掲載しないを選んでもらう。この場合データは宙に浮くので、皆さんには修正ができない。公開が可能になった場合は管理者まで連絡をもらい、登録の手続きをすることになる。
- ・ 管理画面で今日入力された一覧、詳細画面を表示。(新規入力、追加入力分)。
- ・ Web掲載可、ということであれば、これを登録することになる。
- ・ 今日の内容は、データベースがあること、ホームページの説明、入力方法の説明。
- ・ web掲載可になれば公開して、修正部分があれば、修正していただいて完成させる。もしくは公開したくない場合は申し出て欲しい旨、伝える。

○ ディスカッション (10分)

- ・ ホームページでわかりにくい部分を教えて欲しい→挙手なし。
- ・ 忌憚のないご意見を感想用紙に書いてもらいたい。
- ・ 今日取り組みのデータベースの必要性について理解できた方の把握。
- ・ 入力をしてみて、データベースを活用してみたいと思った方の把握。
- ・ 入力のオペレーティングに関して、改善していきたいと思う。
- ・ 会場より：インターネットを開くことが日常あまりできなかつたので、今日はゆっくりできて良かった。今後活用していきたい。
- ・ インターネットによる情報収集→職場で理解が得られる、周知されている。
- ・ 今調べたいものをすぐに調べることができるパソコン環境にあるか→ほぼある。
- ・ 仕事で個人のメールを使える環境にあるか→ほぼ整っている。
- ・ 現場レベルで情報を回していこうというシステムがあるといいと思うが、メーリングリストが欲しいなあ、という方→大勢。
- ・ こんなことができたらいいなあ、ということが具現化できるツールとしてITがあるのではないかと思う。MLは是非実現し、活用していただければと思う。
- ・ 会場：感想用紙の記入。

○ まとめ (20分)

市町村の事業は、けして公開されないものではなく、むしろ公開して、自分の地域でこんなことをしていると住民に説明する責任があるものである。そのツールにしていければと思っている。上司の理解が得られない時の解決策などもMLの運用等で意見交換していければと思う。

・講師感想

・伝達事項：配布した CDRW の説明、フロッピーディスクの持ち帰りアナウンス

D 研修会の評価

1) データベースの充実

この日の研修会で新たに登録されたデータは全部で 47 件であった。その内、6 件はそのまま公開、 41 件は保留となった。

2) 参加者の感想

別紙参照

E 研修会のふりかえり

1) 時間の流れの確認

13 : 20 挨拶・講義 (30 分)

13 : 50 ワークショップ開始 (35 分)

14 : 25 データベース入力 (60 分)

14 : 25 休憩 (10 分)

15 : 35 ディスカッションとまとめ (15 分)

15 : 55 終了

2) プログラムについて

①全角／半角の切り替えの説明

「ALT キー＋半角／全角キー」で統一する

②健やか親子 21 ホームページに行く方法

今回は、直接入力で行ったが、そこでもたつきがでてしまった。

Yahoo から検索していくようにする方が良い

③アドレスの確認をする

表示されたホームページの意味を理解するためにも、アドレスを確認させる事が大切

④ホームページの内容紹介 取り組みの目標値について

便利さを紹介するために、エクセルファイルに落とせる部分を解説する

⑤ホームページを実際に使ってみる

i 最新情報

ii 母子保健・医療データベースについて

*ここで「戻る」作業の確認をする

またデータベースを実際に使ってみたり、別ウインドウで開く場合を経験してもらう

*基本としてはブラウザの「戻る」で戻ることとする。戻れなくなったら、×をクリックする

⑥データベース入力・追加・修正

A. 入力作業について

今回は新規と追加の場合があったので、そこで作業がばらついた
最初に、基本情報を登録しておき、全て追加として入力させるのはどうか

問題点①既存の団体を新規として登録したら2重登録できてしまった。後で確認したところ、やはり2つのパスワードが発生していた

→回避策：入力をはじめる際には、とにかく、まず、既に登録されていないかを確認する行程を設ける

問題点②同一団体から複数参加の場合、2人で新規入力すると、2団体分のパスワードが発生してしまう

→回避策：複数参加で新規入力させる場合は、基本情報の部分は一人で入力してもらう

B. 教え方について

- ・司会が状況を把握したい時、各スタッフが応えると良いのではないか
- ・一説明に一行動というより、ある程度まとめて10分程度説明してから、行動させる（つまり三説明に三行動位）方が良いのではないか

C. 受講者のレベル分けについて

- ・レベル分けのために以下のような質問をするのが良いのではないか
「半角・全角を切り換えられますか」
「メールを使っていますか」
- ・前日に調査し、グループ分けをしておく

D. 持参データについて

- ・基本的にはどんなファイルでも読めるようにコンバーター等用意する方向が良い
- ・持ち寄るデータについての説明が今回は不足していたが、今回は改善済み

E. 入力後の説明

- ・登録からweb公開までの流れのフローチャートが必要

⑦まとめの内容

- ・一時的な公開をして、今日の成果を確認してもらう方が良いのではないか
→公開したくない場合は、その旨終了時に申し出してもらう

i 入力データの一覧を見る

自分が入力したデータを実際に検索し、Web上で見ることを体感する

ii 隣の市町村のデータを検索してみる

最初はわからなかった他地域の状況が把握できることを体感する

iii 人口や保健師数で検索してみる

自分と似た地域の取り組みを把握し、DBの活用方法を体感する

- ・スタッフが入力作業から、データベースの改善点を吸い上げて代弁する

- ・参加者からは、現場での活用につながるような感想を引き出せると良い
- ・研修修了書を出すのが良いのではないか

⑧その他

- ・1か月後のデータベース活用状況によって評価するのはどうか
- ・メーリングリストを山梨・富山で始めて行くことが良い

課題整理

* DB 再構築関連

- ・パスワードの簡易化
- ・登録したら、修正や削除ができない→登録から修正、公開までの流れをわかりやすくする
- ・修正しにくい→一覧で修正できるように
- ・提供者の選択肢の見直し
- ・説明画面の充実
- ・追加項目の検討：設定曜日、時間帯、参加人数、スタッフ、苦労点等

* 研修会関連

- ・ホームページのアドレスを資料に書いておく
- ・レベル分けのための調査票作成
- ・研修修了書の準備
- ・プリンターの準備
- ・登録から web 公開までの流れのフローチャート作成
- ・追加入力に統一すると、事前に参加団体の基本情報の登録及びパスワードの印刷が必要（追加のメリット：パスワード入力的基础になる。新規：全体が見えやすい）
- ・ブラウザの戻る、の考え方 登録した後で戻って修正して再登録できてしまう→戻らないように閉じる
- ・オートコンプリート対応
- ・公開・削除・修正等についての説明

* 保留

- ・公開許可の問題
- ・全国的な登録がないと活用できない
- ・学校保健情報の取り入れ
- ・メーリングリストの構築
- ・パスワードさえもらいたくない参加者がいる

以上

伊賀地域母子保健研修会 報告書



A. 開催記録

1. 集会名 健やか親子21の推進のためのセミナー
～住民の意識をもとに、地域母子保健課題を把握する体験と
データベース活用方法の習得研修～
2. 日時 2003年2月20日(木) 9:00～16:00
3. 場所 三重県名張市 皇學館大學
4. 対象 伊賀地域市町村保健師及び予算作成担当者・三重県下保健師等
5. 講師 山縣然太郎 山梨大学医学部保健学II講座
長瀬 博文 富山県衛生研究所環境保健部主幹
玉腰 浩司 名古屋大学大学院医学研究課健康社会医学専攻
社会生命科学第講座公衆衛生学講師
近藤 尚己 山梨大学医学部保健学II講座助手
山田 七重 山梨大学医学部保健学II講座 リサーチレジデント
薬袋 淳子 山梨大学医学部保健学II講座
アドバイザー 足立 基 三重大学医学部小児科学講座助手
三國 和美 三重大学医学部看護学科大学院生
6. 主催 厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「地域における新しいヘルスケア・コ
ンサルティングシステムの構築に関する研究」研究班
(主任研究者 山梨大学医学部保健学II講座 教授 山縣然太郎)
7. 内容
午前の部「住民の意見をもとに指標をつくろう(思春期の子どもたちの考え)」
9:20～山縣挨拶
研修の概要説明
9:40～課題1:各グループで「思春期の課題をなぜ地域で取り組むのか」についてディスカッショ
ン
9:50～1班から3班発表
○ 全体的な意見要約
・ 本当に地域について皆が共通した意識があるのだろうか?もう一度地域とは?につい
て再度検討する必要があるのではないか。
・ 地域の保健活動を行なう際、どのくらいのモチベーションが思春期の課題にもてるの
か?が重要なポイントになっている。
10:10～課題2「効果的な事業を実施するにはどうしたら良いか?」必要条件を挙げる。
KJ法を用いてOHPによる発表。
10:25～1班から3班発表
○ 全体的な意見要約
・ 優先順位をどうつけていくかが必要である。重要性・緊急性・実行可能性。

- ・ 優先順位を決めていく際、二次元展開法が良い。

1班

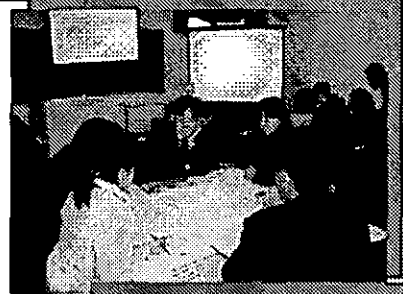
<効果的な事業を実施するための必要条件>

- ・目標設定を明確にする(短期・中期・長期)
- ・具体的な子どもや地域ニーズの把握
- ・予算
- ・地域や専門家の人材活用
- ・関係機関の連携
- ・根拠に基づく効果判定

↑

緊急性・重要性

- ・行政(地域)のモチベーション
- ・現状・ニーズ把握
- ・環境 ハード面(予算)など
ソフト面(関連機関)など
- ・目標・効果



2班

必要性を明確にする。
現在の状況を知る

- ・理解を得る(首長、医師会など)
- ・予算、人的
- ・子どもからの受け入れやすさ

↑

受け入れやすさ

自治会長

中高生

保護者

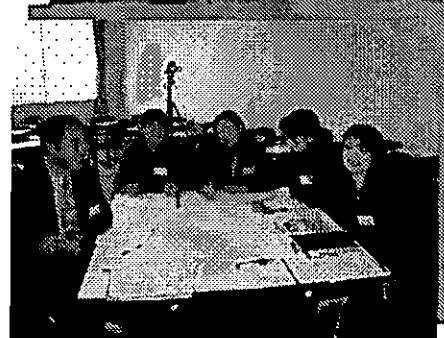
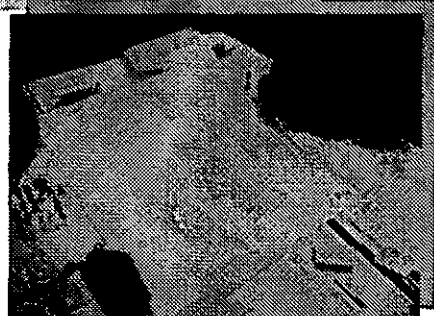
医師会

教育委員会

首長

↓

行政的重要性



3班

- ・対象者のニーズ把握、現状把握
- ・関係機関との連携
- ・予算・設備・スタッフ
- ・評価指標

↑

実行の可能性

評価の指標

ニーズの把握

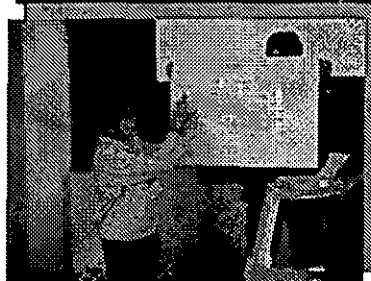
連携

予算

保健スタッフの充実

行政ニーズ

→



10:40～課題3「効果的な事業を展開するための必要条件の優先順位をつける」

各グループでディスカッションし OHP で発表する。

10:55～1班から3班発表

- 全体的な意見要約全体
- ・ 誰か核になる人が必要である。
- ・ 声を吸い上げる必要がある。

11:10～課題4「性についての声を分けてみる」模造紙に声を分類する。

11:35～1班から3班発表

- 全体的な意見要約全体
- ・ 多様なグループ分けとなった。
- ・ 声を反映させることができるのだろうか？
- ・ エンパワメントの必要性。
- ・ 公聴会・座談会への参加、調査への参加、策定委員としての参加。

11:55～課題5「子どもたちの声を反映させて効果的な事業」とは具体的に何か？

について、全員でディスカッション。

- ・ 具体的な方法の一つであるピアカウンセリングがよいのではないか。
- ・ 子供同士で正しい情報交換ができるなど大切。
- ・ 健康(身体・肉体)への害を考える必要がある。

12:00～課題6「ピアカウンセリング養成事業」

- ・ 目的をはっきりさせた企画案を作成

12:10～終わりの挨拶

* 事前に準備した思春期の子どもたちの意見例

他人に迷惑をかけなければセックスをしてもいいと思う	大勢の人とセックスしなければ良いと思う
愛憎が深まればセックスをしてもいいと思う	役にたつ情報を教えて欲しい
お互いに納得すればセックスしても良い	わかりやすく説明して欲しい
コンドームをつければセックスをしても良いと思う	もっと具体的に教えて欲しい
2人の行動は2人で合意出来れば良いと思う	知りたい時にどこを見ればいいかわからない
避妊方法について知りたい	他の子と比べて言うことを聞かない
自分には必要がない	今は聞きたくない
気持ちが悪い	いやらしい
自分には関係がない	ほっておいて欲しい
包茎みたいだけ大丈夫か知りたい	月経が遅れていて心配
アダルトビデオを見たい	マスターベーションは体に悪いのか知りたい
いつからセックスをしていいのかわかりたい	やせたい
援助交際は本人の意識次第だと思う	

午後の部「データベースってすごい！取り組みのデータベース活用方法」

13:00～主催者あいさつ

13:10～山縣プレゼンテーション（健やか親子21 ホームページ概要）

13:20～実践（近藤の進行のもと、マニュアルにそって実際入力を行う）

14:40～入力終了しまとめ

14:50～山縣から研究班の活動内容の説明

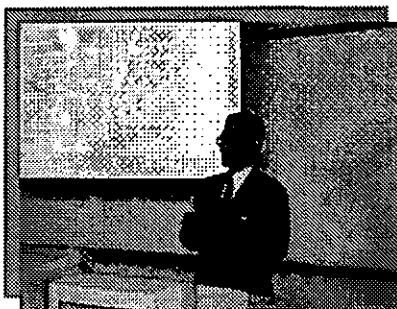
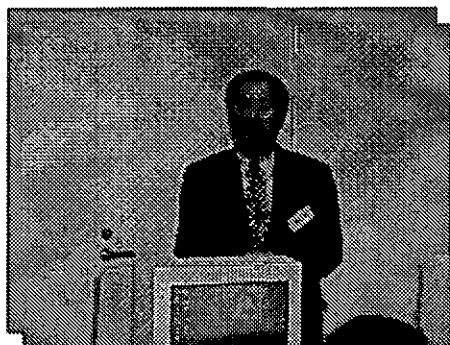
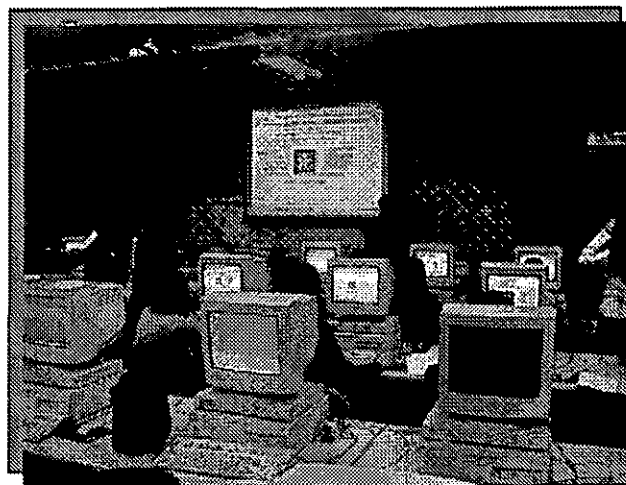
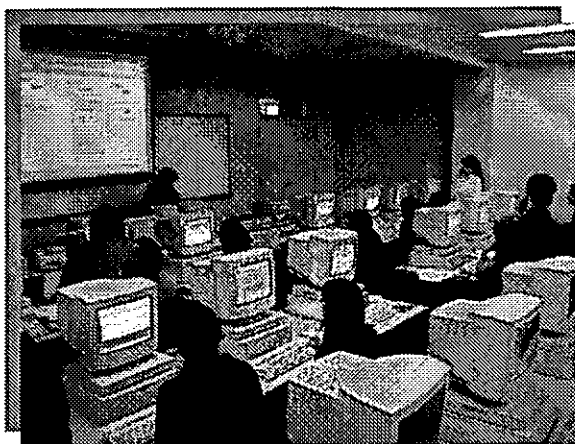
15:10～受講者からの感想発表

- ・ 自分の自治体のPCネットの環境が整っていないため活用できないのが残念である。
- ・ 楽しい研修会だった。どんどんこれから活用したい。
- ・ 母子統計の値を入れ替えることで簡単に作図できることが分かって嬉しかった。
- ・ 参加人数が少なくて残念だった。
- ・ 自分の地域の活動内容を入力することで「こんなに頑張っているんだ」ということを伝えるチャンスでもあった。

等…

15:40～表彰式・終わりのあいさつ

16:00 終了



健やか親子 21 ホームページ活用研修会報告書

2003年3月5日(水) 場所: 島根医科大学

1. 主催・共催

主催 島根県(健康推進課)
出雲健康福祉センター

共催 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

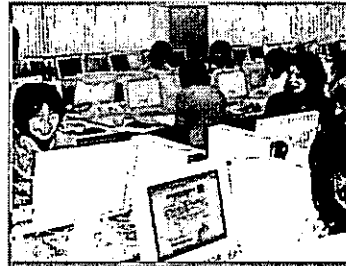
主任研究者 山縣然太郎 (山梨大学医学部医学科保健学Ⅱ講座)

2. 概要

A. 健やか親子 21 ホームページ活用のワークショップ

(9:30-12:30 対象: 行政担当者 看護学部医療情報学講座)

1. 開会の挨拶



2. 主催者挨拶

3. 講師紹介

山縣然太郎

山梨大学医学部保健学Ⅱ講座教授

谷原 真一

島根医科大学環境保健医学第一講座助教授

玉腰 浩司

名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻

社会生命科学大講座公衆衛生学講師

近藤 尚己

山梨大学医学部保健学Ⅱ講座助手

山田 七重

山梨大学医学部保健学Ⅱ講座リサーチレジデント

薬袋 淳子

山梨大学医学部保健学Ⅱ講座

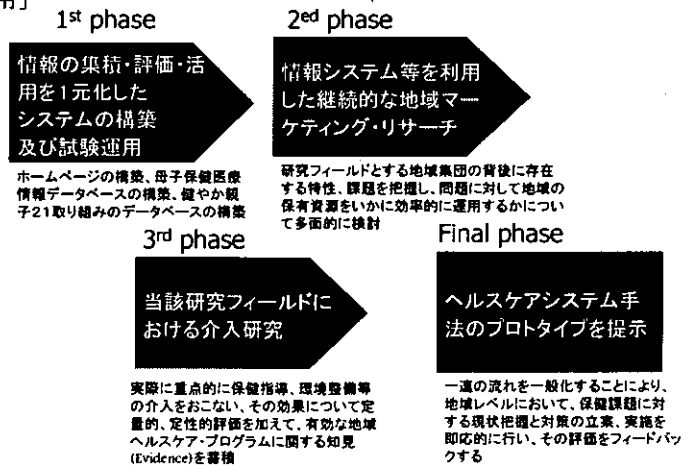
4. 参加者のご紹介

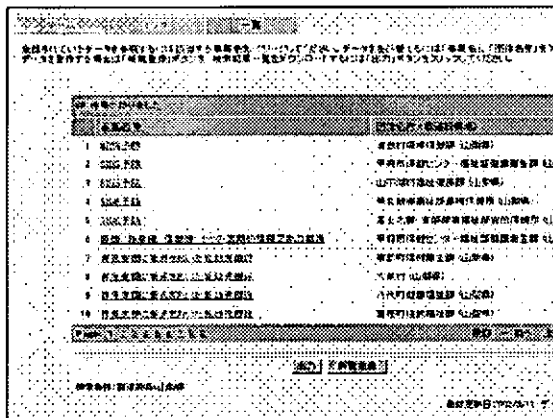
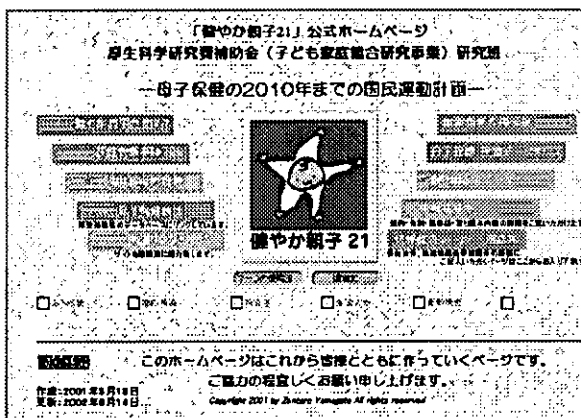
5. 講義 (20分)

「地域母子保健計画推進へのデータベースの活用」

講師: 山縣然太郎

研究を構成する骨子





①「健やか親子 21」公式ホームページの構築・運営

母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のためにホームページ作成を提案し、「健やか親子 21 公式ホームページ」を作成、運営している。作成にあたり内容決定のために利用主体である母子保健行政関係者に対するニーズ調査をした。平成 13 年 5 月に公開、平成 14 年 8 月 29 日現在、約 79,000 件のアクセスを達成している。さらに、利用度解析により必要度の高いコンテンツから情報ニーズを抽出している。

ホームページには 2 つのデータベースを搭載した。一つは母子保健行政の一次資料となる 2700 余の疫学調査を中心とした母子保健医療情報データベースであり、もう一つは全国市町村、都道府県等における「健やか親子 21」の取り組み状況データベースである。取り組みデータベースには 1 月に 1 万件以上の情報を暫定的に登録し、このうち公開許可が得られた 2300 余の情報について、市町村名を公表し、3 月 12 から本格運用を開始した。

6. ワークショップ (100 分 : 休憩を含む)

- 1) 現場にどんどん活用！健やか親子 21 ホームページ：健やか親子 21 ホームページにアクセスし、全国の取り組みの情報を検索します。
- 2) みんなで体感しよう！データベースのパワー：持参していただいた取り組み情報を実際にインターネット上で入力し、データ登録されたことをホームページ上で確認します。

7. ディスカッション (30 分)

- 1) 実習の感想、疑問
- 2) 健やか親子 21 ホームページ、データベースについて

8. 修了証授与

9. 感想用紙記入



B. 小児の事故予防研修会

(13:30-15:45 対象:事故予防関係者 100名程度 看護学部大講義室)

1. 安全点検活動報告 (30分)
2. 講演「地域で取り組む小児の事故予防」講師 山縣然太郎
3. 感想用紙記入



「健やか親子 21」の乳幼児事故対策
第3節 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

1 問題認識

保健医療水準の向上に向けては、(略)さらに、諸外国と比べて乳幼児の事故死が多いなどの克服すべき課題への対応も求められる。

2 取組の方向性

(1) 地域保健 (その1)

イ 事故等の予防

子どもを取り巻く育児環境を考えると、本人だけではなく、周囲の人の喫煙や飲酒等も問題となる。特に20歳代、30歳代の男女の喫煙率が諸外国に比べ高い状況であり、妊婦及びその周囲の人の喫煙は早産や低出生体重児の出産につながったり、乳幼児突然死症候群(SIDS)、気管支炎、気管支喘息等へも影響している。また、子どものたばこの誤飲・誤食等も起こっている。これらの好ましくない育児法についての知識の普及を行い、女性本人の禁煙と周囲の人への分煙等を働きかける必要がある。

3 具体的な取組

(1) 地域保健 (その1)

イ 小児の事故等

小児の事故の大部分は予防可能であることから、小児の発達段階に応じた具体的な事故防止方法について、家庭や乳幼児・児童を扱う施設の関係者に対し、あらゆる機会を利用して情報提供、学習機会の提供を行う。家庭と地域における事故防止対策を浸透させるために、まず都道府県と市町村レベルに協議会を設け、地域における目標を設定し、事故防止対策の企画・立案、推進・評価を行う。

3 具体的な取組

(1) 地域保健 (その2)

保健所等に事故防止センターを設置し、家庭や乳幼児・児童を扱う施設の関係者に対し、事故事例の紹介、具体的な事故防止方法の教育の実施、乳幼児の模型を用いた心肺蘇生術等の応急手当の学習機会の提供等を行う。地域で生じた小児事故事例について医療機関等から定期的に把握し、原因の分析等を行うとともに、関係者に対しその情報提供を行う。また、事故は家屋や施設の構造上に問題があるなど物理的な環境で生じることが多いことから、物理的環境の改善を進める等の取組も考えられる。併せて、マスメディアを通じた広報も活用していく。

子どもたちを事故から守る環境整備

- ・ 事故は予防可能である。
- ・ いつも気をつけているのは無理。
- ・ 気をつけているから大丈夫が危険因子
- ・ 危険のない環境づくりをする。
- ・ 家庭の役割
- ・ 地域の役割
- ・ ネットワークの重要性
- ・ 具体的な対策が重要
- ・ チェックリストで確認
- ・ 誤飲チェッカーなど小道具の活用

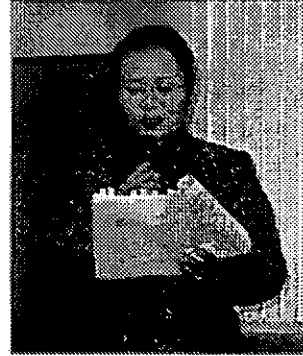


C. 小児の事故予防ネットワーク

(16:00-16:30 対象:ネットワーク会議委員 30 名程度看護学部)

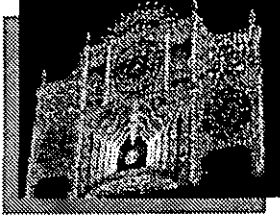
*助言者 山縣然太朗

写真で綴る講演会風景



母子保健研修会 in 愛知県

「母子保健事業(計画)の scrap and build はいかに行うべきか？」



2003年12月1日(月)

(会場：学校法人電波学園あいち福祉専門学校)

主催 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業
「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの
構築に関する研究」班

主任研究者 山縣然太郎 (山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座)
あいち小児保健医療総合センター 母子保健データベース研修会企画委員会

1. 趣旨・目的

市町村において母子保健計画を展開する中、予算等から効率的な事業の推進とその成果が期待されている。健やか親子21の理念に基づき、母子保健計画の目標達成に向け、地域住民のニーズに応じた事業を展開するためには、既存の母子保健事業をいかに評価し、事業の再構築をするための技術等が必要となる。

この研修は、事業の評価方法、情報の収集分析、事業の再構築の手法等について考え、実際の事業実施に繋ぐ手法を学習することを目的とする。

2. 対象

愛知県内の市町村保健師、愛知県保健所保健師

3. スケジュール

***午前の部(9:30~12:00)**

1. 開会の挨拶

- | | | |
|---------|-------|---|
| 2. 講師紹介 | 山縣然太郎 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座教授 |
| | 松浦 賢長 | 福岡県立大学地域看護学教授 |
| | 玉腰 浩司 | 名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻
社会生命科学大講座公衆衛生学講師 |
| | 近藤 尚己 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座助手 |
| | 山田 七重 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座 |
| | 薬袋 淳子 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座 |

3. 講義とグループワーク：母子保健事業における scrap and build の考え方

4. 感想用紙記入

***午後の部(13:00~16:30)**

1. 講義とグループワーク 「取り組みのデータベースの利活用を考える」
現場でデータベースを役立てる際、どんな情報が必要になるのか、事例を通して検討します。
2. ワークショップ
自身の地域のデータをについて、必要な情報が掲載されているか、という視点でふりかえり、実際にデータの登録や修正を行います。
3. ディスカッション
4. 閉会のことば
5. 感想用紙記入

構成

参加者 愛知県内保健師 50名

9グループ作成

- 1G: 4名 尾張市 豊田市 瀬戸市 豊明市
- 2G: 5名 蒲郡市 田原市 津島市 豊山市 一色市
- 3G: 5名 江南市 春日井市 長久手町 東浦町 足助町 知立市
- 4G: 6名 豊田市 小牧市 岡崎市 西枇杷島町 尾西市
- 5G: 5名 半田市 七宝町 犬山市 幸田町
- 6G: 5名 豊田市 美浜町 稲沢市 新城市 吉良町
- 7G: 5名 春日井保健所 津島保健所 半田保健所 師勝保健所
- 8G: 5名 半田保健所 加茂保健所 江南保健所 西尾保健所 衣浦東部保健所
- 9G: 6名 一宮保健所 春日井保健所 瀬戸保健所 豊川保健所 新城保健所

1. 9:30~主任研究者あいさつ(山縣)
講師紹介
2. 9:40~「母子保健事業のScrap and Build」についてプレゼン(PPT使用)⇒別紙参照
3. 9:55~Ice Breaking 各グループごとに保健師になって感動したことをまとめる。

○10:05~発表 1G 2G 3G

- ・ 援助した際に大変喜んでくれた時!
- ・ 自分の訪問で家庭と繋がりができた時!
- ・ 視野が広がる。
- ・ 感謝された時。
- ・ ケースが保健師を覚えていてくれた時。
- ・ 人との出会い。
- ・ 地域で広い視野でみることができる。
- ・ ケースに喜んでもらった時。

- ・ 子どもの成長をみることができる時！
4. 10:12～事業評価はなぜ必要か？各グループにごとにまとめる。



○10:20～発表 4G

- ・ 改善する目的に評価が必要である。
- ・ 効果の検討。
- ・ 予算の確保
- ・ 事業のレベルアップ。
- ・ マンネリ化予防。
- ・ 予算を効果的に使う。
- ・ スタッフの増員要求できる。



5. 10:25～まとめ 下記項目ができていますか？

- ・ 実施報告（上司への報告）半数できている
- ・ 目的達成 少数できている
- ・ 継続必要性 半数以上できている
- ・ 改善の余地 半数以上できている
- ・ 住民への説明 少数できている
- ・ 新事業の基礎資料 半数以上できている

6. 10:50～グループでの実際の事業評価開始。

○11:20～発表 7G 8G 9G (OHP 使用)

1班

評価

- ・ パパママ教室（尾張旭市 母親教室）

実施経過評価

- ・ 計画通り
- ・ 利用状況→初産婦 4割、経緯 5%
100×来ても対応できる
ハイリスク（若い群 etc）への働きかけ要
- ・ トラブル→なし（気分悪い人への対応あり）
- ・ スタッフ反応→助産婦…諸儀中人の行き来あり
- ・ 関係機会直携→年に1度助産婦との話し合い



2班

思春期事業

問題点：喫煙・飲酒率↑ 10代妊娠↑

目的：1. 学校とのつながりをつけるため、思春期の授業を立ち上げた
2. 子ども自身が自己決定できる

方法：小学校、中学校から依頼のあった学校を対象に、
① クラス授業②学校保健委員会③学年全体授業
(アンケートは学校の養教が作成したものを使用)

実績： (H14) 小学校 1 喫煙
 中学校 1 喫煙・性教育
(H15) 小学校 2 生活習慣、喫煙
 中学校 2 喫煙、性教育
・母子保健計画を校長会と各教部会に出した。

評価：・(トラブル) 学校より依頼→すすめ方、内容が学校(校長)と折り合わない。
 内容が具体的に伝えられない。

- ・(トラブル) 日程調整が難しく、準備に時間がかけられなかった。
内容が満足するものにできなかった。
- ・感想だけで終わってしまった。
- ・事前アンケートと、数ヵ月後の事後アンケートができるとうよかった
- ・目的1まで達成できた。

3班

母子保健に関する課題で“育児不安”

事業名

- <新米ママの栄養教室>
- ・初産婦対象の栄養教室
 - ・隔月1回
 - ・参加者数は10人~20人

東浦市

- ・年4回実施
- ・初産婦と限っていない
- ・妊婦の交流めざして
- ・通知送っても参加者は10人程度(毎回)

江南市

- ・4回コース(2ヶ月で4回しています)
4回中1回は栄養の話
妊婦の交流の場になっている
- ・助産師の話の会 人気
- ・栄養教室は予約制。
栄養教室の回、参加者数減る
40人/回 参加

母子保健…すぐに結果でないため 評価難しい。

5 班

幸田町 親子教室について (健診事後教室)

事業経過評価

○参加者数増加

→今年度 2 グループに分け、回数ふやした

○参加者の増加により…

- ・ 母の相談に十分対応できず、参加者からも不安の声きかれていた (回数ふやし改善)

○関係機関

- ・ 教室には専門職が参加
- ・ 子育て支援センターとの連携 (+)
- ・ 療育施設の不足 (参加者減らない)

○スタッフの反応

PDD の増加、忙しい

7 班

<低出生体重児訪問>

目標：育児支援、児の状況の確認

対象：2500g 未満で出生した児、36w 以下

計画：対象者の状況の 100%把握 (HV、tel 等)

実績：H14 年度 対象の 75%

未把握の 25%は手紙等で HV の連絡をし、HV するが会えないケースなど。

→ほぼ 100%にアタックしている

評価：計画通り、進捗している

利用状況…75%

事業を障害するもの 連絡しても返事がこない 不在

関係機関との連携 … 連絡会議を持っている

8 班

虐待防止対策事業 (ほっと・はーと・めいと クラブ)

- ・ 経緯 : 虐待が増加。虐待になる前にどうにかならないか。
- ・ 対象 : 子供を叩いてしまう。子供が可愛くない。育児不安がある人。
- ・ 実施内容 (今年で 3 年目): 6 回コース (各回テーマを設けて)
グループワーク (1h) 母子分離
- ・ 周知方法 : 広報、市町・児相からの紹介
- ・ 参加状況 : 最高 20 組 (予約電話は 1 日で満員になる)
平均 10~15 組うち 3~4 組は継続の必要あり
↓
事後 G へと発展 1 回/M 全員出席
(ほっとはーとめいとへのピアになってもらいたい狙いあり)
- ・ スタッフ 保健師 心理士 (親 G)
保健師 保育士 主任児童委員 (3G)
(終了後、スタッフで話しあい)
- ・ 実施経過評価
 - ・ 計画通り ・ 利用状況も良好
 - ・ トラブリー母のニーズ (保健師に教えてもらいたい)
(問題点) とズレあったケースあり→ミニ講話 (11 修正)
 - ・ スタッフ一気になる子と母が一致。
思った以上にせっぱつまった母が多かった。
通勤族が多く元々のグループに入れず悩んでいる人も多い